

第24年度 事業計画

事業の目標

「子どもとの活動のリニューアルと新しい活動基盤をつくる一年に」

コロナで止まった対面活動の再開と新しい活動スタイルを。

この2年間で、40年間取り組んできた子どももおとなも集い、活動してきた多くの活動が中止や縮小していきました。終了とした活動もあるなかで、改めてコロナで止まった活動をコロナの状況を踏まえながらもできる形で実施していきたいと考えています。従来からの取り組みの再開を期待する声があれば、コロナがあるなかで人数制限やできる場所という制約もあります。それらを踏まえて、新しいスタイルでの活動を検討し、実現につなげていきたいと思えます。またいくつもの活動が一度止まってしまったからこそ、活動再開とあわせて、これまでやっていなかった活動も子どもたちやみなさんの声から実施していければと思います。さらに昨年度実施できなかったこどもフェスタも実施を検討し、こどものひろばに関わるすべての人との再会と、そこからの再出発を目指します。

運営体制や実施体制の見直し

昨年度は事務所の移転があり活動場所の見直しとなりましたが、この一年は運営体制と実施体制の見直しやその基盤整備に取り組んでいきます。大きな点では、まず役員体制の見直しです。現役員体制も2年目となるため、次の改選期に向けて事業方針などを検討しながら、その方針に見合った役員体制を検討していきます。あわせて役員の見直しだけでなく、コロナで止まっていた活動の再開にあわせて新たな活動スタッフの募集や活動再開を支える事務局をはじめとした職員体制の強化も必要となります。

会員やボランティアメンバーの交流や拡充と運営基盤強化

止まっていた活動の再開や新規のアイデアを形にしていくにあたって、コロナ対策も考えると小規模の活動からのスタートとなります。一方で小規模活動や実験的な活動では参加費収入だけでは運営や継続活動が難しいことも考えられます。なにより活動をはじめるとあたって資金面の弱さは実施への大きな壁にもなり得ます。そのため、資金面では法人全体として活動資金を応援できるよう支援会員や寄付者を募っていくことと、この2年間で活動スタッフが減ってしまった事業などのボランティアを募っていきます。あわせて新しい活動スタッフも増え始めていますので、改めて研修や意見交流の機会を増やしていきます。さらにかつて各活動に関わっておられた会員やボランティアの皆さんから改めて関わってほしいという声もあがっており、より活動への参画がしやすい環境整備も含めた、これからの新しい活動スタイルの検討や運営体制の見直しとあわせて意見交換は重要な機会と考えています。

新拠点（事務所）を活用した日常的な交流活動

昨年度から活用している新拠点ですが、現在事務局、個別支援活動、連携事業としてのフリースペース、食糧配布の拠点といった形での活用となっています。コロナもあり多くの方に来ていただいている活動には活かしていませんが、今後はげんきスポット0-3にも近い立地を活かしながら、日常的な子どもとの交流や、地域交流、小さなイベントの会場としても活用していきたいと考えています。現在ガレージセールやげんきスポット0-3の水遊びの場所などのアイデアも出ていますが、もっと気軽にお茶を飲み、お話しに立ち寄ってもらえる場所を目指していきます。

改めてポイントを整理すると以下の4点を中心に取り組んでいきます。

1. 対面・集団での体験活動・文化活動・交流イベント型の事業の再開と活動を通じた再会や新しい出会いができる活動づくり（こどもフェスタや中止事業の再開と新規交流の機会づくり）
2. これからの事業運営を踏まえた役員体制・実施体制の見直しと整備
3. 小規模でもそれぞれのアイデアを形にできるための会員やボランティアメンバーの拡充と運営基盤強化（ボランティアや活動スタッフ、支援会員や寄付者の拡充）
4. 新拠点（事務所）を活用した日常的な交流活動

第24年度 各事業計画

	事業内容	実施日時	実施場所	従事者 (スタッフの 人数)	対象者の範囲 定員 参加人数	予算額 (千円)
舞台芸術 鑑賞活動	-	-	-	-	-	-
子どもが自 ら創る体験 活動事業	子どもフェスタ 小規模で子どももおとなも楽しみ、 交流できる祭典を実施する。	秋頃	地域一円	15人	地域の 子どもと大人 300人	75
	子どもの体験活動事業 子どもたちの体験活動(野外体 験、文化体験、ものづくり活動)を 実施する。	通年	地域一円	10人	子ども:100人	150
	町たんけん 地域を知り、その中での出会いから 人と人がつながり、より良い地域 になることを目指す。山科かるた や、ガイドブックを普及させ、有効 活用できるように努める。昨年度 実施出来なかったことをうけ、年 度を超えて継続的な活動を行う。	通年	地域一円	13人 (メインスタッフ・ ボランティア・講 師)	小学生8名 かるた大会参加児 童数約30人	192
子育てサ ポート事業	げんきスポット0-3(げろさん) 未就園児を持つ親と、その子ども 達のサポートを常設会場「げんき スポット0-3」にて実施する。屋根 のある公園を目指す。 充実事業の委託として げんきス ポット0-3を飛び出して地域の場 での支援を行う。 ※京都市の委託事業	毎週火～土曜日	げんきスポット0- 3	21人 (ボランティア8 人 講師4人)	地域の 子どもと大人 のべ6500人	6801 (委託金 6661)
	楽習サポートのびのび 集団活動が苦手な子どもや、学習 機会の少ない子ども、また経済的 等の理由で体験活動の機会がな い子どもへの個別(生活・学習・余 暇)支援事業。	通年	地域一円	-	-	-
	子どもの貧困対策事業 集団活動が苦手な子どもや、学 習機会の少ない子ども、また経済 的等の理由で体験活動の機会が ない子どもへの個別(生活・学習・ 余暇)支援事業。コロナ禍の影響 を受けた家庭に食材・衛生用品の 配布支援も実施する。 ※京都地域創造基金事業指定助 成事業 ※近畿ろうきん「笑顔プラス」寄付	通年	地域一円	30人	地域の子ども: のべ300人	4000 (助成金4000)
	山科醍醐地域ひとり親家庭等へ の生活・学習・居場所サポート事 業 伏見区醍醐・小栗栖地域を中心 に、小学校高学年の子どもとその 家族へのサポートを行う。 ※京都府委託事業	通年	地域一円	30人	子ども: のべ300人 保護者: のべ15人	8450 (委託金8450)
ボランテ アサポー ト事業	ボランティア・研修部 ボランティア希望者の、各事業へ のコーディネートを行なう。 ボランティア活動に参加する際 の、子どもとのかかわり方や、参 加者が希望する内容の研修会を 定期的に行なう。	通年	当法人事務所	4人	-	-
	講師派遣・インターンシップ受入 事業 当法人スタッフの講師派遣及び当 法人におけるインターン希望者の 受入を行う。	通年	地域一円	4人	-	500

	事業内容	実施日時	実施場所	従事者 (スタッフの 人数)	対象者の範囲 定員 参加人数	予算額 (千円)
ボランティア サポート 事業	のびのび@たいむ のびのび事業の利用を終えた高 校生等の居場所とボランティア推 進事業。	通年	地域一円	2人	20人	—
広報・出版 事業	ひろばつうしん 会員向け情報誌「ひろばつうしん」 の発行。 イベントや活動の参加募集チラ シ、外部団体のチラシなども発 送。	月刊	—	—	150部を12回	—
	コッペパン 広報誌「コッペパン」の発行。	季刊	—	2人	1,000部を4回	—
	ひろばの本 「貧困とひとりぼっちのないまち」 「まちのこどもソーシャルワーク」 の頒布を通じて、ひろばの広報や 社会への啓発を進める	通年	—	—	—	150
	サポートBOOK 「子どもの貧困課題に地域で取り 組む支援者のアクションサポート BOOK」の頒布、活用。 読書会の開催。	通年	—	—	—	—
ネットワー クづくり事業	ホームページ 当法人におけるホームページの 定期的な更新情報の発信及び、 基本情報の公開を行う。	通年	—	—	—	—
	分野連携ボランティアネットワー ク事業 当法人登録ボランティアと子ども 分野の活動団体とのネットワー クづくりを行う。	通年	—	—	—	—
	山科子育て応援団 社会福祉協議会を事務所として 山科で子育てサークルや子育て 支援をしている諸団体との交流を 行う。子育て支援サロンを開催す る。	通年	社会福祉協議会 他	—	—	—
	中学生勉強会(おぐりす・だいご・ 醍醐支所) 生活保護受給者等中学生学習支 援プログラム。 ※京都市ユースサービス協会委 託事業	通年	醍醐事務所 トハウス 醍醐支所	20人	おぐりす5人 だいご5人 醍醐支所15人	2713 (委託金2713)
	みんなの家 フリースペースとして開放。 (主催:社会福祉協議会)	第1、第3、第5 月曜日	こども生活支援セ ンター	—	—	—
	企業との連携 企業からのボランティア体験の受 け入れや、イベントでのボランテ ィア呼びかけなど。	通年	—	2人	—	—
	ランランおでかけひろば 会員同士の交流、支援会員その 家族も含む。	通年	—	2人	30人	1